

平成25年度 校区外部評価 自己評価表(最終まとめ)

学校名 品川区立東海中学校

【学校評価表の作成および評価にあたっての留意事項】

- 各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
また、教育委員会事務局が示した「評価指標(黄色い部分)」のほかに、各学校で、必要に応じて評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。
- 校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果(取り組みの状況や変化等)について、必ず説明をしてください。
(校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。)

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校にご請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	(1)本校の基礎学力に関する基本的な考え方 本年度、東海グループでは、義務教育終了時の目指す生徒像を「自信をもち、将来像を語れる子」と定め、小中でこのような子に育てていこうという教育指針を打ち出しました。この指針に基づき、生徒一人一人に身につけさせたい学力を「社会の中で自立して生きていくために必要な力」と捉え、「論理的に考える力を基盤とした学力の育成」を指導の重点の一つとして、各教科・領域での学習指導を進めてまいります。 (2)そのための今年度の基本方針 ①学習規律を確立させ、学ぶ土台を固めていきます。 ②「意欲」「興味」「関心」の高揚を図り、自ら学ぶ姿勢を築かせていきます。 ③教えるべきことは徹底して教え込み、考えさせるべきことはじっくりと考えさせていきます。 ④全教科で「論理的思考力」を育成する単元を設定し、重点的に取り組んでいきます。 ⑤可能な限り、意識的に日常生活と教科学習をリンクさせ、理解の深化を図っていきます。 ⑥個に応じた指導を充実させながら基礎基本の定着を図ります。 ⑦理解の早い生徒にも目を向け、力を伸ばしていきます。 ⑧衝撃の導入、劇的な展開、納得の終結を指導案にもりこみ、魅力的な授業を試みます。					
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
①児童・生徒は、学習の構え(学習するぞという雰囲気、学習の準備)ができています。	C	<ul style="list-style-type: none"> 一部のできていない生徒が目立つが多くの生徒はできていると思う。 7～8割の生徒はできていると思うが、一部の生徒は時間を守り、授業の準備ができていないと言えない。 	学習の心構え(授業中居眠りをしない、姿勢を直す、教師の話をよく聞く)は大方の生徒はできているが、一部の生徒は教科書・ノート等の準備ができていない。学校側は全校体制で、この3点を重点指導として取り組んでいる。	学習意欲向上週間を機会に生徒指導を強化している。学級でも学習習慣について考えさせている。	26年度は重点週間を適切に定め、教師の共通実践を強化する。個別指導を行っていく。家庭に協力を依頼する。	
②児童・生徒は、授業中、教員や友達ときちんとした言葉でやり取りをしている。(単語や拳手だけの応答となっていないか。)	B	<ul style="list-style-type: none"> 敬語を使えない生徒がいる。けじめができていない生徒がいる。授業にふさわしくない発言もある。 授業中の質問などで好き勝手に話をしてしまう生徒がいる。 	授業中の教師と生徒のやり取りで、ふさわしくない言動態度をとる生徒がいるが、きちんとした言葉でやり取りしている。	指導困難な生徒がいるが、個別指導を繰り返している。	粘り強い共通実践を行う。	
③教師の指導に、メリハリをつけている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心が湧く指導展開を心がけている。 重要なポイントとなるところは板書に残すように心掛けている。 集中するときはする、楽しく会話するときは会話するなど、メリハリをつけている。 	指導力のある教師の授業は、メリハリがあり、言葉遣いが明瞭である。	授業中に注意を与えるときは、一度作業を中断させるなど、教員の注意に集中させている。	若手記教師を中心に実践を通じて学ばせる。	
④教師は、価値のある体験活動を実施している。(見ていて、その体験活動の意味やねらいが分かるか。)	B	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークや視覚教材などを取り入れている。 そういう意識付けを心掛けて指導している。 市民科で一部行うことができた。 	教材が工夫されている魅力のある授業には生徒の目の輝きが違っている。	ものづくりなど森林体験などを実施している。	教師同士互いにより取り組みを研修する。	
⑤授業規律を確立するために、教師は必要に応じて全体指導及び個別指導をしているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 始業前の教室待機や挨拶等の徹底はできていると思う。 騒がしい時に注意をしたり、個別に呼んで話をすることはある。 だまって様子を見ていることがある。指導しきれない場面もある。 	教師の姿勢がそのまま生徒に反映している。	各学期ごと重点習慣があると、それを契機に共通実践しやすいいろいろな方法を試しているが、効果的な方法がない。	チャイムで始まる授業、教師の話を開かせる指導、居眠りをさせない教科指導を共通実践し強化する。個別指導を並行して有効に粘り強く行う。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	・時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉遣いのできる生徒の育成。 ・心のよい生徒の育成 ・指導する場面を見逃しているところを改善したい。					
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
①学校は、市民科の授業を計画的に実施している。	C	<ul style="list-style-type: none"> 市民科担当の教員によりしっかりした計画を立てている。 道徳等心の教育が足りない。 行事準備と市民科本来のテーマとのバランスがとれていない。 	市民科の指導計画はしっかり立てられているが、学校行事等の関係で、計画通りにいかないこともある。週ごとの指導計画による進行管理がきちんとできているかが疑問である。	学校行事や活動の進行上、なかなか計画通りいかないことがある。	1学期間の具体的計画を学年ごとに立てる。校長が確認する。	
②教師は、あいさつや礼儀、場に応じた行動など、しつけるべきことをしっかりと指導している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼や集会等では指導できていると思う。個々の生徒の様子を学年全体で見つめ、問題点がある場合は共有している。 しつけるべきときを見逃していることがあるかもしれない。 	廊下等では挨拶ができない生徒が多く見受けられた。	指導しても定着しない生徒がいる。生活委員会の朝の挨拶活動は係としては定着している。	あいさつ運動の工夫をさせる。	
③児童・生徒は、市民科で学んだことをもとに適切な行動をとろうとしている。(市民科で学んだことが日常生活の中で定着しているか。)	C	<ul style="list-style-type: none"> 今後の様子を見て、検証する必要がある。すぐに適切な行動に結びつかないが、将来に生きる教科であると思う。 残念ながら特に礼節について定着していない。 	自分の意見を持ち、他の人の話をきちんと聞いて相手を尊重する気持ちを育ててほしい。	道徳的な内容を多く盛り込みたい。	市民科の計画や指導内容を改めて計画的に実践させる。	
④教師が範を示している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が規範意識をもって生徒指導に当たっていると思う。 服装等社会人としてふさわしくない者もいる。 時間のけじめはしっかりつけるようにしている。 	特に教師の服装については、「教員が自分でしたい服装と生徒の前に立つ場面の服装をわきまえてほしい。」という意見が出た。	時間については教師が範を示している。	教師も時と場をわきまえた服装行動を持って、範を示させる。	
⑤人間性・社会性の育成に関して、生徒の実態に基づき、課題解決を進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 個々のもつ家庭環境や問題点を共有し生徒指導に当たっている。 問題が起きた際は、その都度学年の教員で協力し解決を図っている。 	今後も全校体制で生徒の課題の共有に努めてほしい。	様々な課題があり、同時並行で対応している。	教師が、事象を逃さず的確に指導する感性と意識を高める。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	・カリキュラム・マネジメントモデル校2年目というテーマをかかえ、実践しながら小中連携を推進する。				
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見
①教師は、小中一貫教育の意義を十分踏まえた指導をしている。	C	・自分があまり意識できていない。定着できていない。 ・一貫校に比べ中途半端に終わっている。 ・まだ全体像がつかみきれないところがあるように思う。	分離型による小中一貫教育の推進は、難しいことも多々あるが、学校側は様々な努力をしている。	小学校との交流がつかみ切れていない。	教科指導の連携に重点化する。
②小中一貫教育のよさが児童・生徒に伝わっている。	C	・分離型だからなのか小学校の様子がわかりづらい。伝わりづらい。実感できていない。 ・7年入学時のギャップ解消等、有効にはたらいっている。	小学校の児童会と中学校の生徒会の提案により、地域の清掃活動を行い、地域の人々には目に見える形で一貫教育のよさが理解されたようで大変好評であった。	生徒会担当の負担は大きい。	実践を通じて伝える。児童会生徒会の交流など
③学校は、保護者・地域に、小中一貫教育のよさを理解してもらう努力をしている。	B	・あまり感じられない。 ・努力はしていると思う。 ・管理職から説明している。	教師間の交流が増えたり、学校便りからも小中一貫教育について努力している様子がうかがえる。	・小学校との取組を通して保護者・地域に訴えている。	豊かな心の醸成、学力の向上を図っている。
④小中の連携に向けての取組が進んでいるか。	B	・昨年度よりも会議が開かれる機会が増えている。 ・部活動体験、児童生徒会での連携をしている。 ・教育会が機能している。	他区からの教員の移動や若手教員が増加してきたので、もう一度原点に戻り、小中一貫教育について全教職員で理解を深めてほしい。	簡素化してほしい。 小中連携の研究に時間を割きすぎると、普段の生徒との触れあう時間が減少し、信頼関係を構築するのが難しくなる。	カリキュラムマネジメント3年目で教科連携を通じ小中教師の交流に重点を置く。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	・プラン21に基づき、開かれた学校を目指す。 ・保護者・地域との信頼関係を深め、生徒の健全育成を目指す。				
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見
①学校は、保護者・地域に対して積極的に関わったり情報発信したりしている。	B	・学校便り、学年だより等で学校の情報を発信している。 ・管理職が中心となって説明している。 ・地域の行事に積極的に参加している。	学校便り、学年便り、ホームページの学校からの発信はよく行っている。	学校公開で知らせたいという意識はある。	学校を開く。学校だより、学校公開、地域人材の活用等で情報発信する。
②学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。	B	・職場訪問、職業体験など地域の方々と連携している。 ・PTAの協力を得ている。	職場訪問、職業体験学習を通して地域の保護者の方々に活動の様子が伝わっている。また、都立高校教員の出前授業、民間企業の講師による市民科授業、民間企業の楽団との合同演奏等外部との交流に努めている。	職場訪問、職業体験で地域の方々から働くことの大変さ、大切さを教えてもらっている。	職場訪問は力を借りている。保護者は特定の方の力は借りられるが、昼仕事をされている方が多いのでできることを工夫して依頼したい。
③外部の人材等を生かした教育活動を行っているか。	A	・企業の楽団と合同演奏を実施している。 ・企業の講師が市民科の授業を実施している。 ・都立高校の教員による出前授業の実施。	東海中の地域の方々は昔から学校に大変協力的であるので、地元の人材(地域の身近な人材)をもう少し活用してほしい。	地域の方が授業に入るには準備調整が難しい。	市民科の時間を工夫しやすくすれば、人材の活用も可能だが、時間調整が厳しい。単元のねらいに合せて、月①とか水⑤の時間に来校できる方がいれば推進したい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>		・教職員自ら校舎内外の整理整頓に努めるとともに校舎・教室や教材・教具を大切にすることを育てる。			
評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①学校は、常に、児童・生徒の安全に配慮している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識、安全意識を高める努力をしている。 ・朝や休み時間の巡回を実施している。 ・避難訓練を年11回計画している。集団下校訓練の練習も実施している。 	生徒の安全についての配慮については、先生方が休み時間によく巡回している姿が見受けられた。	休み時間の見回りなどを重視している。	防災については教師の意識をさらに高める。
②学校は、ふさわしい環境(掲示、清掃等)を整える努力をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・主事さん方の努力に助けられている。また、美化委員会がよく機能している。学校の古さをカバーしきれない。 ・教室や廊下の清掃だけでなく、トイレの清掃もしっかりやっている。 	校内掲示は生徒の作品等がタイムリーに掲示され、来校者には学校の活動の様子が一目瞭然に分かるが、掲示されたポスターやパンフレット等に期限切れのものが掲示されていたので気配りしてほしい。	物の破損について指導はしているが、壊したものについて名乗り出る生徒が少ないのは残念である。	粘り強く生徒指導する。ふき掃除は己を鍛えるためだけでなく、学校をきれいにする心であると修正する。
③学校の玄関や廊下など、全体的に清掃が行き届いているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の清掃だけでなく教職員も清掃活動を実施している。 ・廊下、階段等、校庭の砂ですぐに汚れてしまう。 ・ふき掃除をはじめ環境美化に努めている。 	公開授業時に教室、廊下、トイレ、教室の生徒個人の戸棚を見るが、以前より清掃が行き届き、戸棚も整理されていた。また、主事さん方の日々の清掃が学校の美化に大変寄与している。校庭の砂埃が校舎に入るので改善を望む。	日々の清掃活動にも力を入れている。	生徒に一層美化意識を高める。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方		・6月の二者面談、休み時間の巡回等を実施しいじめ等の早期発見、早期対応に努める。 ・市民科による心の教育に力を入れるなど、全活動を通じた温かな学級作りを目指す。			
評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①児童・生徒アンケートや、その他の取組みを具体的に実施して早期発見に努め、発見時は組織的な対応をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にアンケートを実施し早期発見、その後の個別相談などに努めている。 ・休み時間、昼休み等、できるだけ教員が廊下について生徒の様子を観察している。 	いじめ防止に関しては、定期的なアンケート調査など週1回の生徒指導部会での情報交換等を通していじめの防止に努めている。	組織的な対応がとれるように努めている。	早期発見早期対応については、教師自らの意識と感性を磨き、同時に行動力を習得させたい。
②未然防止のために、市民科を中心とした指導を展開している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・講話やDVD視聴など未然に防ぐ取組は計画されている。 ・学校生活全般にアンテナを立てていると思う。 ・特に心に訴えかけるようなかわりができていない。 	評価委員には分かりにくく把握できないという意見が多数であったが、いじめ防止には温かな学級づくりが重要であるという方針のもと全校をあげて取り組んでいる。	成果が見えづらいので地道に繰り返し継続指導する。	市民科で人間関係づくりや思いやり、道徳的要素を明確に計画し効果的に実践させる。
③日頃から、子どもたちが相談しやすい雰囲気はできているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の側から声をかけるなどして、話しやすい環境であると思う。 ・休み時間等も生徒と一緒にいる時間を多くとっている。 ・生徒の話をじっくり聞く余裕はない。 	休み時間、昼休み等で教員が廊下に出て生徒の様子を観察したり、休み時間を生徒とともに過ごすなどしている。	時間が作りにくい。	子どもたちが教師と触れ合う時間を日常の中で工夫し、確保する。
④いじめに関する生徒の情報は、全教職員で共有できているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回開催する生活指導部会や企画調整会議、朝会でその都度報告している。養護教諭、スクールカウンセラーとも連携している。 ・職員室内でも気軽に相談できる雰囲気はある。 	常に教員がアンテナを高くして、いじめの早期発見、早期対応に努め、情報を共有しようと心掛けている。	日ごろからの生徒の人間関係などに十分に注意を払っている。	生活指導部や学年の連絡を密にするよう、ミドルリーダーの意識を高める。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

<p>本校の基本的な考え方</p>		<p>・活動を通じてリーダーシップ、フォロワーシップを育成する。 ・礼法指導、ふき掃除などの実践から心を育て、美化、奉仕の意識を高める。</p>			
評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①運動会や音楽祭等の生徒主体の行事を通して、リーダーシップとメンバーシップを育み、チームワークのすばらしさを学ばせているか。	A	・運動会では実行委員を中心にチームワークの大切さを学ばせることができた。 ・生徒主体の行事であることは全生徒が感じていると思う。 ・取組は非常に熱心である。	運動会、音楽会では、素晴らしい生徒の発表の場となり、保護者、地域の人々に感動を与えている。	主役を生徒とした取組として、リーダーシップとフォロワーシップを学ばせている。	継続する。
②子どもたちに、地区委員会等が主催する地域行事への関わりをもたせ、地域に根ざしたボランティア活動を積極的に推進しているか。	B	・ボランティアについて、今後は地域に根ざした活動を意識させる。 ・ボランティア活動に参加するように呼びかけを行っているが、生徒の意識は薄い。以前より低下しているように感じる。	生徒にその目的、意義をしっかりと理解させることにより生徒の主体性、成就感を高められていくと考える。	偏ってはいるが参加している生徒は意識がたかまっている。	年間を通じてボランティア希望調査を4月にとる。活動させながらボランティアの意義を学ぶ。
③各学年で実施する宿泊行事については、3年間の見直しをもって、段階を踏みながら生徒の主体性を伸ばし、成就感を高めさせているか。	B	・班行動の練習が不足している。遠足を実施できていないのが残念である。過渡期であり再考が必要である。 ・宿泊行事については、7月から計画を立て、生徒の主体性を伸ばしていく。	宿泊行事においては、班行動に課題がある。例年実施している宿泊行事はマンネリ化に陥りやすい。	現象面で問題行動が起こる場合はあるが、全体としてリーダーシップやフォロワーシップが育成されていると考える。	生徒活動の重点として、主体的に活動する生徒を育てる。
④本校の伝統的取り組みである「生徒による礼法指導」や「全校一斉ふき掃除」を継承し、我慢する力を身につけさせているか。	B	・ふき掃除の時間が十分にとれていない。ふき掃除の際にはしゃべらないことで我慢することを学ばせている。 ・日常生活で身に付いているかは少し疑問である。日常への応用はできていない。	東海中の伝統的な「礼法指導」「全校一斉ふき掃除」はよく継続している。この指導が日常の学校生活に生かされていくと生徒の日常の挨拶、授業態度等の改善につなげていく必要があると考える。	日常に身につけていない指摘は否めない。	実践を通して日常生活で活用できるようにさせていく。
⑤英語検定・漢字検定・数学検定・パソコン検定等の資格取得に向けたはたらきかけを行い、チャレンジ精神を養っているか。	A	・本校が会場であり、意欲的に受検する生徒も増えてきていると思う。 ・教科の先生方が積極的にやっている。意欲的に取り組む生徒が多い。	英語検定、数学検定、パソコン検定等、資格取得に良い成績をおさめている。意欲的に取り組む生徒が多い。その影には担当の先生方の積極的な指導があることを忘れてはならないと考える。	基本の級はもとより、より上級を目指すように指導を重ねていく。	資格取得を学習意欲の向上につなげていきたい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない